

九州の風

●発行／九州ミロク会計人会
●協賛／株式会社ミロク情報サービス

Winds from Kyushu

vol.100

2021年1月



丑年に因んで、福岡の「もーもーらんど」で撮影
(福岡地区会 船越 久人)

低気圧・高気圧

まだまだ、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっており、この冬が心配ではありますが、三密を避け気を付けていかなければと思う今日この頃です。

さて、私は一昨年税務署を早期退職して鹿児島県指宿市の自宅で開業し、のんびりと仕事をしていました。そうしたところ、今年の春に、税務署勤務時代に同勤した先輩のS税理士から、「加治木支部のB税理士が廃業する予定であり、その事務所を一緒に引き継がないか？」との連絡を受けました。そうすると、指宿市から通勤するのは難しいので単身赴任することになります。やっと、泊りの出張や単身赴任生活から解放されて、家族と一緒にいる時間が増えたばかりであり悩みましたが、せつかくのお話であったため、先輩からのお誘いを受けることとしました。

そして、今年の7月に始良市加治木町に登録変更し、S税理士と一緒に仕事を始めました。B税理士の顧客は、直接受任という形で私が担当することになりました。

私は、MJSのシステムに少しずつ慣れてきたばかりでした。ところが、B税理士のシステムは他社のシステムで契約もまだ残っており、引き続き使用していかなければならない状況であったため、また一からシステムを覚えていかなければなりません。更に、S税理士は、また別のシステムを使用しており、このシステムも覚えなければならなくなり、頭の中がぐちゃぐちゃになりそうでした。

現在では、あまりシステムに詳しくない私の机に3台のパソコンがあり、それぞれ違うシステムを活用しなければならず悪戦苦闘中ですが、業務に励んでいきたいと思っています。

(鹿児島地区会 重留 隆男)



contents

ご挨拶	2
会員のひろば	3
熊本大会の報告	4
100号記念座談会	5
100号発行に寄せて	17
システム委員会だより	19
新任役員・委員紹介	26
偏西風・お知らせ・編集後記	27

ご挨拶



九州ミロク会計人会 会長 大久保 昌逸

新年あけましておめでとうございます。

九州ミロク会計人会の皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、今年の干支は「辛丑」です。丑とは、植物の芽が種子のなかで伸びることができない状態を表しているのだそうです。そのように考えると我々もまた思うように芽を伸ばすことができず種子の中で力を蓄えている状態の年と言えそうです。

旧年中は会員の皆様には新型コロナウイルス感染症拡大の中、数々の研修や会議が中止又は延期されました。それが年も後半に入った頃になってようやく、研修についてはインターネットでのライブ配信やオンデマンド配信が始まり会議についても Team や Zoom などのアプリケーションを使って Web 会議が開かれるようになり、年末近くになってやり方も洗練されてきました。皮肉なことですがその結果として明けて本年は、むしろいつもの年より研修の時間を多くとれるようになるかもしれません。

九州ミロク会計人会の行事においても、本来であれば昨年 11 月 5 日に第 45 回全国統一研修会熊本大会が開催される予定でありましたが、これが本年の 11 月 18 日（木）に延期されました。延期後の会場に変更はなく、30 名を超える実行委員のみなさんも同じメンバーでありますから当初の計画よりも時間をかけた分だけ細やかなものになるだろうと思っています。ただ正直なところを申し上げるなら、実行委員会としては順風満帆計画通りに開催できるという前提で用意を進めておりますが本年 11 月時点での新型コロナウイルスの状況の予測が立たないため目論見どおりの開催ができるのか非常に心配しています。

改めて、皆様どうぞ今年の第 45 回全国統一研修会が無事に開催できますようお祈りください。

昨年から今年にかけての世情は、我々がかつて経験したことがないことの連続です。コロナ禍での決算や確定申告業務において関与先に寄り添った仕事をしていくには、いつにも増して関与先経営者とのコミュニケーションを深める必要があると思います。そのためには日常業務に使用するシステムはもとよりクラウドや Web 会議の用意もしておかなければなりません。皆様どうかミロク情報サービスの各支社と連携し九州ミロク会計人会が一丸となって関与先サービスの向上に努めていこうではありませんか。

最後になりましたが、この新しい年が会員の皆様にとりましてすばらしい年となりますようご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



株式会社ミロク情報サービス 執行役員 九州沖縄圏統括部 統括部長 鈴木 和人

新年、明けましておめでとうございます。

旧年中は大変お世話になり、社員一同心より御礼申し上げます。

昨年は、九州会をはじめ各地区会の総会・研修会・ゴルフコンペ等のレクリエーションもことごとく中止となってしまった一年でした。しかし、このような状況の中でも、九州会の会員純増数は全国の単位会の中でも一番の純増数を維持しており、会の力強さを感じております。

今年はまだまだ Web を使った会議や研修会が続くものと思われませんが、延期となった第 45 回全国統一研修会 熊本大会の成功と会員増強を、先生方とともに実現していきたいと思っております。

本年も、更なるサービスの向上に努めて参りますので、より一層のご支援、お引立てを賜りますようお願い申し上げます。

皆様のご健康とご多幸をお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。

北九州地区会

研修会「取引相場のない株式を

移動する場合のケーススタディ」

事例を交えて学ぶ有意義な研修会



令和2年10月6日（火）、北九州地区会では新小倉ビル6号会議室において、MJS 税経システム研究所客員研究員で税理士の谷中淳先生をお招きし「取引相場のない株式を移動する場合のケーススタディ～株式の時価とみなし贈与などの課

税問題～」というテーマにて研修会を開催しました。

取引相場のない株式が移動した場合、その株式が原則的評価方式なのか配当還元方式なのか、移動先が個人なのか法人なのか等、様々な状況が考えられるため判断に至る過程が複雑なものとなっています。谷中先生からは基礎的概念を踏まえながら事例を通じ詳しく解説して頂きました。その事例の中で、令和2年3月24日最高裁判決におけるみなし譲渡課税における時価等についての事案説明はよく理解することができ、事象を通じ適用される法令・通達等の解釈及び判断をしなければならぬことを改めて痛感するもので、非常に有意義な研修会となりました。

（北九州地区会 佐藤亮治税理士事務所 向井 智彦）

福岡地区会

研修会「土業の必要経費を検証する」

徹底した感染症対策を講じる

令和2年11月10日（火）、MJS 福岡支社セミナールームにて研修会を開催しました。テーマは表題の通りで、講師には MJS 税経システム研究所客員講師で税理士の守田啓一氏をお招きしました。

今年度2回目の集合型研修です。本来であれば令和2年度の研修事業も半ば終了しているところですが、このコロナ禍において未だ2回目がやっと開催出来たといった状況です。

今回も手指消毒、検温は勿論、ソーシャルディスタンスを確保するため受講者は各テーブルに1名の着座、さらに講師にはフェイスシールドを着装して講義を行ってもらう等の感染症対策を徹底しました。このような状況下で他地区会から3名の参加を含め30名の方が受講されました。

福岡地区会では12月と1月にも研修会の開催を予定しております。一方で新型コロナウイルス



感染症の第3波襲来が懸念される時期でもあり、同一テーマによる会場集合型研修とWeb研修の選択受講ができるように準備いたしました。皆様におかれましてはお手元に届きます「研修会開催案内」にご注意の上、いずれかを選択していただき奮ってのご参加をお待ちいたします。

（福岡地区会 笹田 毅）

佐賀地区会

研修会「贈与税・相続税の重要テーマポイント解説」

業務に活かしていこう



令和2年10月5日（月）佐賀市の「グランデはぐくれ」において、MJS 税務システム研究所 客員研究員で税理士の武田秀和氏を講師にお招きして「贈与税・相続税の重要テーマポイント解説～意外と知らない贈与税・相続税のポイント解説」というテーマで3時間の研修会を開催いたしま

した。コロナ禍の中での開催という事で3密対策を万全に整え、60名程収容可能な部屋を参加者18名で使用し、手指消毒、換気を行いながら実施しました。

講義では、親族からの借入金が増与財産に該当するか、未分割の場合の相続税申告手続きなど、贈与税、相続税の実務において押さえておくべきポイントを解りやすく、丁寧に解説して頂きました。

講師の武田先生は、受講者の反応が分かるため対面での研修会が講義しやすいと話されていましたが、私もWebで受講するより、講義に集中できる内容が頭に入ったような気がして（あくまでも本人の感想です。）良かったです。

研修の成果を早速業務に活かしていこうと思います。

（佐賀地区会 池田 健一）

第45回全国統一研修会 熊本大会 第5回実行委員会

実行委員長 宮本 律夫

本来なら第45回全国統一研修会が盛大に開催されるはずだった令和2年11月5日、その日に第5回実行委員会が、九州各地からWeb出席を含めて30名の実行委員の出席を頂いて開催されました。

令和2年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、東京オリンピックの延期を筆頭に、春夏の高校野球の中止、プロ野球の大幅な日程短縮、そして確定申告の期限の延長など私たちが今まで経験したことがないことが次々とおこりました。

私共が2年がかりで計画してきた、全国統一研修会も残念ながら一年延期となりましたが、幸いにも当初予定していた講師に再度お引き受けいただくこととなり、ウィズコロナ時代の新たな研修会の在り方を実行委員皆さんの意見を頂き、それ



を踏まえて、令和3年11月18日の第45回全国統一研修会をより一層の熱い想いを持って開催させていただき運びとなりました。

令和3年の11月、世間の情勢がどうなっているか予想もつきませんが、私たちが努力して、考えて、できる範囲内で最高の研修会を開催したいと思っています。

どうか会員の皆様には実行委員のメンバーと、一致団結してのご協力をよろしくお願いいたします。

座談会



<出席者>

顧問 (前会長)	船越 久人	システム開発委員長	外園 令明
顧問 (前広報委員長)	木村 好晴	広報委員長	空閑 秀樹
会長	大久保昌逸	事務局	鈴木 和人
副会長	赤川 治之		桑原 智彰
			矢野 智美

空閑 本日は遠いところからまた、お忙しい中ご参加いただき、ありがとうございます。おかげさまで「九州の風」が昭和62年に第1号を発刊して、来年の正月号で第100号を迎えます。ということで、本日のこのような座談会をやったらどうだということでお声がけいたしました。皆様、快く御参加していただきまして、ありがとうございます。

今日はいろいろテーマを一応予定しておりますが、テーマに特にこだわりなくお話しただいて構いません。今、こういう時期で地区会活動がありません。「九州の風」も入稿記事等がないので、長くなっても大丈夫ですから、たくさんお話しただければ幸いです。それでは、早速始めさせていただきます。

「九州の風」第1号発行は昭和62年

空閑 「九州の風」の第1号発行が昭和62年12月10日、ちょうどこの直前に九州会の統一研修会が九重レークサイドホテルで開催されております。

赤川 九重ですか。

空閑 九重レークサイドホテル。多分、その関連で「九州の風」の発刊となったと思うんですが、その辺のお話はどなたか、船越先生、御存じでしょうか。

船越 僕らだって、この当時は理事をしていたわけじゃないのよ。一会員なのよ。だから、一番詳しい人は桑原さんですよ。

空閑 桑原さんは、発行時のこととか詳しいと思いますので大いに話して下さい。

船越 よく覚えているのは、九州会の統一研修会実行委員会というより、レークサイドでの統一研修会自体が本当の手作りだったこと。桑野先生がまずシステムを利用した資金管理と経営効率化のポイントということで話をし、次に、その当時の開発部長の鶴巻さんが、ミロクのシステムについて研修をしたこと。外部講師の三遊亭圓歌は、覚えていないけど、その二つの研修は熱心に聞いてたよ。

俺が大体、「九州の風」の中に入り込んだのは、システム開発委員長が城先生だったのね。城先生が桑原

さんにシステム開発だよりをやるから何人か探しくれという話で、そのときに俺の名前と原さんの名前と二人出たわけで、それで入り込んだという感じやね。

空閑 第2号のシステム委員会だよりは城先生が書かれていますよね。

船越 1回目は？

空閑 1回目はまだ、そのときはまだなかったようです。第2号から始まったみたいですね。

船越 1号にシステム委員会だよりがあるよ。

空閑 そうですね。一番上ですね。

船越 だから、1号には城先生が最初に書いたんだろう。

外園 第2号が固定摘要の応用2で、第1号が固定摘要の応用だから、やっぱり城先生。城先生からです。

空閑 当時からもうシステム委員会とか研修委員会という今のような組織はもう出来上がっていたんですか。

外園 4委員会じゃなかったかな。

船越 4委員会だよ。あなた委員長していたでしょう。

外園 これにも井山さんの名前、業務改善委員会で出てるから、あったりする。

船越 だから、業務改善委員長に井山さんがおられて、その委員長のところは全部委員会はあったと思うよ。

外園 ただ、御存じのように全国組織だったのはシステムだけです。システムだけは全国の委員会が。

船越 ただ、あれは委員会じゃない。システム開発会議だった。

外園 ガス抜き会議だね。

船越 だから、委員会というのは誰かが。

外園 永松さん。

船越 永松さんが会長になったときに、委員会制度をつくれという話で、それで始まったんです。

外園 あれは委員会じゃなかったっけな。

船越 会議というの。まあ、似たよう



九州の風1号(昭和62年12月発行)



なものだったけど。システムだけ。

空閑 当時の研修会は今のよう各地区で開催していたんですか。

船越 うーん。地区会が強くなかったからね。どっちかという九州会イコール福岡地区会みたいなものやったからね。だから、福岡は結構あったと思うけど。ただ、いつだったか忘れたけれども、研修に回ったよ、九州を。

木村 昭和62年前後でどうだったんでしょうかと。

船越 いや、その後というか、結構早かったよ、回ったの。

木村 平成になってでしょう。

船越 いやいや、昭和の年度やから。誰か……。宇野先生が何か話をしたとかいう言いよったよ。宇野先生とか、そういうときに俺らも話をしたと思う。俺は地元じゃすかんけん、よそへ行くって言った。そういうのは残っとらん？

桑原 残ってないですね。「よか使い方」からはあります。

船越 その前に何か話したよ、俺。

桑原 MJSではシステム研修会は当然ながらやっていたんですよ。

船越 システム研修じゃない。九州統一研修会は最初が九重のレークサイドホテルで、次に全国統一研修会の九州大会があったろ。あれが西鉄グランドホテルでやった。そしてその後、九州として第2回九州統一研修会の霧島大会をやったわけよ。

大久保 その2回きり？

船越 九州統一研修会はその2回で止まってる。3回目は、やろうとしたけど、結局全国統一研修会の福岡大会があったわけね。最初は西鉄グランドホテルでやったけれども、その次はシーホークでやったわけよ。それに充てようというって、結局その予算の一部を九州会の予算でもって第三部会か何かをやった。

外園 分科会でしたっけね。未来の税理士。

船越 税理士の未来はどんな感じか、21世紀の中で、

そういう感じでやったんだ。

全国統一研修会の九州大会は、これが2回目。

空閑 こっちが2回目で、その前に西鉄グランドホテル。

船越 第1回は西鉄グランドホテル。それは、この九州統一研修会をする前の話やから、「九州の風」の1号より前やろう。

桑原 前です。

船越 そのときは、西日本新聞社の論説委員が話してくれたと思います。ちょっと有名な人。誰やったかな。

外園 益田憲吉。

木村 全国統一研修会の九州大会というやつ。

桑原 昭和59年ですね。

船越 全国統一研修会九州大会は西鉄グランドホテルが1回目や。

木村 九州ミロク会計人会の統一研修会、九重でやったよりは先。

船越 これが1回目、取りあえず1回目。

外園 九州のミロク会計人会って、いつ発足したの。

桑原 昭和50年です。ミロク会計人会協議会ですよ。

外園 昭和50年ですよ発足は。そうしたら結構たってるんじゃない。昭和59年だから、9年たってる。

船越 9年ぐらいしていないんでしょう。持ち回りやけん、最初は熱海かどこかでしたっやろ？

桑原 最初は福井ですね。その次が熱海です。

船越 それが昭和50年。

桑原 第1回の全国大会は昭和51年なんですよ。

外園 それよりも1年先に九州会ができていたということか。

桑原 ミロク情報サービスよりも、ミロク会計人会のほうが歴史は古いんですね。

赤川 威張っていいんや。

外園 そうそう。威張っていい。

船越 そのときに全国の税理士会を参考にしてつくったんです。

地区会活動を励ました 九州統一研修会の開催と成功

外園 ということは、元に戻すと、まず発刊の経緯というのは、全国の統一研修会をしてからやろ？その後九州会の統一研修会でしょう。

船越 多分ね、そうそう。それが来た。

外園 だから、そういう意味じゃ、まず九州会は昭和50年に発足はしておったけども、ここまで緻密な組織じゃなくて、統一研修会をしてからもう少ししてから。

船越 だから、会としてはあったよ。それこそ最初から、この実行委員会というのがあるじゃん。こういう委員会組織は全部あったよ。それで、システム委員会 は城先生がずっとしよったわけ。それが連合会とリンクしたわけ。

外園 リンクしたのは永松先生のところだからね。

船越 これで、風が来たなと思うよ、俺。その理事会の席で会報をつくらうという話が出たよ。

外園 なるほど。じゃあ、そんな感じで、反省会をみんなで作らうということじゃなく、冊子を作らうって感じでしたんだ。

船越 だから、その会員相互というか、組織を強くするためにね。

外園 まあね。

船越 ただ、俺はそのときには入っとらんから、はっきり分からん。ただ、推測するに、これ、メンバーを見たら結構古い先生たちが入られて、言いたいこと言う先生ばかりじゃない。

外園 名前見たら、御歴々が並んぞるなと思った。

船越 もう半分以上、おらんしゃらんね。

外園 うん。1号のときの御存命の人って誰かな。

木村 このときの元山先生。

外園 そう。東先生。元山先生と井山先生。

木村 だから1号の編集後記に空閑稔先生が書いてる。

赤川 すごいな。親子2代で編集しよる。

木村 世襲制です。

船越 昔は普及広報委員長と言いよったよね。

桑原 はい。

船越 ここにちゃんと委員長の名前で全部名前が入るとるけん、組織そのものはあったと思うよ。地区会もね、鹿児島までずっとあるやん。熊本、福岡、北九州から長崎、大分、鹿児島。ああ、宮崎がないね。宮崎は？

外園 宮崎は支社がなかったけん、鹿児島と一緒に統括しとったけん、なかったか。



船越 久人氏

桑原 いえ、あったんです。鹿島先生が、2号のほうに。

船越 あったあった。

桑原 すみません、ちょっと裏話をしますと、「九州の風」が理事会でと私が言い切ったのは、実は空閑稔先生とその後にお話ししたんです。先生方が「九州の風」を発行しようということと言われて、当然普及広報委員長の空閑先生に振られます。空閑先生が帰りに、「みんな勝手なことばっかし言ってね」と言われたので覚えているんです。当初は、全部空閑先生が電話して原稿依頼していただいたんですよ。

空閑 それは覚えてますね。

桑原 私、事務所に伺って、「原稿をどうしましょう」と言うと、電話をずっとされたんです。その後に原稿がある程度集まって、まだ来ない先生には、また事務所に行って「先生、原稿来ないんですけど」と言ったら、また電話をかけていただいていたんです。

空閑 最初のうちはそんなふう。2、3年ですかね、電話をしまくってました。大体定着してからはそこまでなくて、事務局からお願いすれば集まるようになりました。

木村 いや、私も電話でしよった。

空閑 そうですか。

赤川 当時から年何回って決まっていたんですか。

空閑 年3回です。「九州の風」という名前がついたのは、何か理由は。ここにちょっと書いてありますけれども、九州より全国に風を云々って。

赤川 風を起こそうと。

船越 そうそう、そういうふうな感じでしたらと思います。だけん、名前も「九州の風」やろ。

赤川 この風は台風のことかとか。

船越 違う違う。(笑)文化というか。江戸時代から、結局西方から全部文化が来とるけんね。

大久保 風は西から吹いてくると言うけん。

空閑 そうですよ。コラムは、「季節風」と「低気圧・高気圧」。

赤川 この写真のレークサイドは、地震の前か。後か。

桑原 地震の後じゃないですかね。1回潰れてますね。

赤川 潰れたんですよ。そのとき、僕は大大での勤務やったから、その写真を撮りに行ったもんね、広報でね。道路がこうなって。そういうのが税金が使われますよという広報をやった。

空閑 そういう感じで立ち上がりまして、全国統一研修会、これが開催されていて。

船越 これのときはね、僕が研修委員長やったから、この11号と30号……。11号が九州統一研修会の霧島

大会やる。

木村 霧島大会のときだね。

舩越 11号。そのときがね、僕が研修委員長で、その当時のMJSの三角君と原先生と三人でつくっているもんやね。あと皆さん、それなり臨時総会とか開いておるけん、賛成してもろたんやけど。最初は地味やったけん、俺の独断でつくりました。だけど、このときうれしかったよ。各地区から全部バスを出したけんね。

赤川 私は開業が1990年で、この30号が1997年11月ですね。このときのシーホークに急遽、当時の大分の児玉先生が一本釣りに来て、参加人員が少ないから、お前のところは宇佐やから、近いからって。職員全員連れて行って、当時、バイキングという方式が初めてで、みんな喜んで食べた。

舩越 このときはたしか、城先生が副実行委員長で、実行委員長は山内先生。山内先生は会長やったやろ。30号。

外園 ちょっと戻して、第2回の霧島の話。

舩越 11号？ 11号のときは田崎先生が実行委員長。

舩越 11号といたら、これは九州会の統一研修会霧島大会やろ。

外園 2回目ね。

舩越 このときは田崎先生が実行委員長。僕が研修委員長で、原さんが研修副委員長やったんです。その分科会を考え出したのは原さんや。このときのアイデアが全国統一研修会で結構今でも使われとるけんね。

大久保 霧島の話？ ああ、分科会あるね。

舩越 うん。霧島のときにつくったのが、こんな小さい、小冊子みたいなのがあるやん。あれは霧島のときに初めてつくった。分科会方式もね。

木村 そのときは分科会と言っている、お祭りの分科会。

舩越 そうそう。基本的に分科会といったら、このときが最初。

外園 城先生が言いよったね。風呂入って、講師の日下さんの悪口を言いよったら、目の前におったという話です。(笑)

舩越 日下公人さんやったやろ。

外園 そうそう日下

公人、面白くなかったとか何やかんやと言いよったら目の前におっしゃったって。風呂の中で。

舩越 という話をね、城先生から聞いた。

赤川 でも、にこやかに話したと書いてある。

外園 書いてあるんですよ、面白くなかったそうです。

舩越 面白くなかったちゅうわけじゃないけど。

赤川 小林千登勢さんがよかったからやないのか。

外園 ああ。比較するとどうしても。

赤川 だから、11号の記事に、講師を誰にするか難しかったけど、小林、日下両先生のお話はそれなりに面白かったと書いとるやん。

外園 書いてあるね。誰が書いたっちゃろうか。気を遣っとる。(笑) あの頃から日下さんの話は意外と堅くて面白くないという話は聞いていた。

舩越 ただね、やっぱりこういう中央から呼ぶときはね、MJSの本社に頼まないとしようがないと。

外園 だよ。実際はそうやから。

舩越 こっちで決めたのは全部だめやったんでしょ。鹿児島大会もそうやったけど。あの頃は何か、テレビドラマで西郷隆盛か何かあったやろ。違った？

空閑 「翔ぶが如く」。

舩越 「翔ぶが如く」か、そうそう。それで、そのときに加山雄三やったか誰かが斉彬役で、それを呼ぼうかという話があった。全部そういうのを呼ぼうかと言うとって、全部だめやったんや。

外園 でも、オランダ村のあれは九州会から出したんやったっけ。

舩越 オランダ村？

木村 神近義邦さん。

外園 神近さん。うちから言うてから神近さん呼んだんじゃなかったっけ。

舩越 彼は福岡大会じゃないの。鹿児島やった？

外園 福岡、たしかシーホークのときに呼んで、筒井さんと神近さんじゃなかったっけ。

舩越 あのときには、神近さんが1部の講師ね。筒井さんが来たろ？ 筒井康隆さん。そのとき、木村さんがえらい言いよったもんね。筒井康隆のファンやろ。それだけ覚えとる。

木村 だって、いつも何か、ここに書いとるけど、式典と称するものをやって、偉い講師を呼んで、それで宴会をして、ちゃんちゃんみたいな。それで、そのとき、たしか旅行もみんなで回って。

外園 下見したよね、下見した。

木村 日豊本線がえらく遠いのがよう分かった。

外園 このときに第3分科会をして、プラス第4分科



九州の風 11号 (平成3年6月発行)

会があって、福岡ドーム見学ツアーをした。家族の人は福岡ドームをずっと見学して回ってくださいと書いてある。

船越 まだ札幌ドームができてなかったから、北海道の先生がさ、せっかく未来の税理士分科会で、勉強をした後に、そっちに行かんでシーホークを回ったと言った。

外園 ツアーがあったけん、それに参加して。

木村 この頃桑原さんは本社だったよね。

桑原 そうです。だから、シーホークでやったときは、本社籍のまま私は福岡に戻ったんです。全国大会が終わった後、何か月間だけは福岡支社の所属になったんです。

木村 桑原さん、もう勤続何年？

桑原 37年です。

赤川 37年、すごいな。1冊本が書けるね。(笑) 空閑先生は何号から手がけたんですか。

空閑 私の前に木村先生がいらっしゃいます。先生が35、36号から？

赤川 3代目か。

木村 いつやったか忘れたよ。

桑原 2000年から木村先生は委員長なんですけど、1994年から副委員長ですね。

赤川 大事なポストやな、広報は。

木村 世襲制を止められずに。(笑)

外園 このときに、ほら、何か全国版作ってから、みんなにせんかった？

木村 これは全国に配っている。

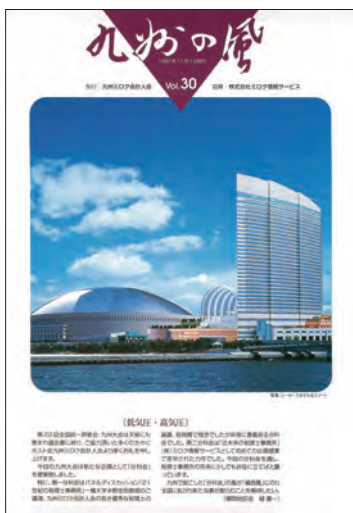
船越 今でも「九州の風」を送りよるんじゃないの、各单位会の会長に。

桑原 単位会の会長さんには送っています。

大久保 毎回褒められますよ、九州すごいねって。こんな年に何回も出しよるって、毎回褒めてもらう。

船越 だけん、こういうのが出ておったけん、変な話やけど、連合会の会議のときには大きい顔ができるということがある。

外園 でも、本当に今でもありますよ、「システムQ & A」とか、他会でコピーさせてもらっていいですか



九州の風30号(平成9年11月発行)

とかいう話がきたら、どうぞ御自由にとか言っ

船越 ところで、熊本大会はどげな感じになっとうと？本来、今年する予定やったっちゃけん。

大久保 来年の11月18日にやるという。今回すごいよ。例年は実行委員会4回でやるんだけど、今回、実行委員会8回目です。

外園 2年分ある。

会員のニーズに応えた編集方針

空閑 次の議題に移ります。

外園 でも、ここの3番目の役割と今、赤川先生言うけど、確かにシステムとしてはいろんなことを告知できたし、最近はしてないけど新しいシステムをここで告知させてもらったし、改善要望に対して回答も。これがあるから、みんなに告知できた。なかったらアンケートを取っただけで終わってしまうからね。そういう意味ではありがたいと。私、言い方悪いけど、ホームページにもあげてるけど、ホームページはほとんど見てもらえてないからね。

赤川 九州会のホームページ。

外園 うん。

木村 最初に話が出たとき、「九州の風」に原稿を載せてくれと言っても、なかなか書いてくれない。今、地区会活動が活発になっているから、地区会だよりという形にして各地区会の動きを何でもいいから取りあえず上げてくれというふうにしたんです。私がというわけじゃないけど。

赤川 でも、それはいいと思う。こういう機関誌って会員のお互いの顔が見えるというんですかね、それが大事だと思いますね。

木村 大体私、連合会の広報委員長もやっていたので、そのときにいろんな話をしたんだけど、ミロク会計人会の会員って一体何という話。そこで「CHANNEL」という機関誌が毎月発行しておりますけど、それも同じコンセプトに変えたんですよ。今までが結局、ミロク情報サービスという会社がIR活動の一環としてやっていたんですね。だから、それじゃおかしいだろうということで、我々が手作りっぽくやり始めたんです。そこで、「会計人会って何？」という議論になって、たしかパネルディスカッションじゃないけど、ホワイトボードに取りあえずキーワードをがっと思いついたんです。

結局、ミロク情報サービスという会社のファンではない。ミロク情報サービスが提供するシステムのファ

ンであるということがその会員の共通項になって、それに研修がくっついたり、いろいろ福利厚生がくっついたりしているだけであって、ミロクのシステムが好きだから、みんな集まっているんだよねという話になった。

それは九州会でも同じこと。だから、九州会ではもうシステム委員会だよりと地区会だより、この2本柱でやるべきだということになったんですよね。

外園 ずっと継続していましたからね。

木村 その二つだけが柱です。だから、各地区会でいろんな活動を活発にやっていたか始めているから。昔はそんなことなかったからね。

外園 お金のありなしで活動差があったから。今はみんなにお金を配れるようになったし、いろんなことができるようになったから、活動が活発化して、研修会とか宮崎にしても年1回とかだったじゃないですか。それが今、何回もできるようになったから、あれはいいことやった。

大久保 地区会の活動はやっぱりミロク会計人会の本当の姿だと僕は思うから、その辺の動きがこの「九州の風」で、ほかのところにも全部見えていくというのがとてもいいなと思っている。もう少し言うと何か、仲間意識というのを醸成してもいいかなと。ミロク会計人会で仲間意識があまりないよね。

船越 会計人会の歴史がここに書いてある。昭和50年に税理士会をモデルに正式に独立したミロク会計人会の設立に入ったと出とるから、このときできたみたい。九州が、九北会と南九会があるけど、九州全体で一つという形で会ができた。

木村 だから、税理士会みたいな組織でもない。強制加入じゃないから。

船越 そうだね。単位会で正式に会報を出しているところはうちだけだったからね。

外園 今は多いですね。

船越 北海道とどこだったかな。

桑原 今は結構出しているんです。

大久保 関信、北陸、中部、四国も。

船越 ただ、こんな冊子じゃなから。

桑原 いえ、冊子です。



九州の風65号(平成21年6月発行)

大久保 北海道の「北の大地」って、なかなかいい。
赤川 いいな。「北の大地」って。でも、「九州の風」もいいな。

すみません、議題ががらっと変わります。先ほど顔が見られるといいねという。ストレートやけど、税理士会の会報は新入会員にこうやって顔が見えるんですよ。だから、こっちにも九州の会計人会に新規加入したリストとか、誰が入ったとか、今度は熊本がすごい入っているなというリストがあるといいかなと。

空閑 会員の異動ですね。

木村 それは、隠れミロクとかいろいろいるわけですよ。名前と顔は出したくないとか。

大久保 ただ、何か新規入会者に本当、こういう何か使い方をするとか、何かちょっと世話をしてくれる人がおってもいいなとはずっと思うんやけどね。

船越 桑原さん、新規入会された人がおるやろ。そういう人に、例えば最新号の会報を渡さんと？

桑原 最新号をお渡ししているケースと、入会促進で持っていったるケースはあります。

外園 案内ツールはあるよね。つくったよね。拡大して。

船越 それは宣伝パンフレットやけんね。会報がね。

外園 でも、基本的には今、ミロクさんの営業やCSさんが一生懸命動いてくれておるから、ワンセットとこのを作って渡しとって、持っていってもらうのは可能だと思います。

木村 税理士会で見ると、誰がどこのユーザーというのは分からんようになっている。

大久保 e-Tax のときに、あれは苦労したね。誰が何をよりか分からんもんね。

木村 だから、ちょっと難しいところはありますよね、そこは。だから、来る者は拒まず、去る者は追わずというスタンスでいいんじゃないですかね。

税理士法人が50%超える時代が… 会計人会の姿、形にも大きな影響

赤川 来年の全国統一研修会は、熊本が頑張ってくれておるけど。

外園 ですよ。よく頑張っているし、いろんな人が出てきてあるんですよ。前みたいな、会長だけとかね、もう決まった人が二、三人じゃなくなりました。

赤川 それと地震復興のメインテーマがあったけん。

外園 やっぱりいろいろしていただいたのを感謝せないかんということで、気持ちよく引き受けてもらった

からですね。ほんとよかったと思ってですね。

大久保 でも、この1号とか2号とかを見ると、確かに吉江先生、小宮先生、元山先生、井山先生とずっとすごい面々がおられたね。鹿児島地区会の桑原先生とか、つい最近まで出



大久保 昌逸 氏

ておられた。それとか今、山口先生は委員とか役はしておられないけど現役だし、すごいと思うよ。個々に言うと我々自体がそうなんやけど、ちゃんとやれる人がずっとやってきて、優秀な人だけど本当にちゃんとできる方がずっと委員長をしてくれるから、それはとてもいいことなんやけど、若い人が全然入ってこれんというジレンマがあるんやないかなと。どこの会もそうなのかもしれん、会という会は。若い人たちとか、新入会の人たちがずっと上がってこれるような、どげんかならんとかって、いつも思うんよね。

木村 まず一つは、独立した事務所である会員、税理士が少ない。これは今もう独立事務所は6割切っているでしょう。五十何%のはずやから。

大久保 最近は独立せんもんね。

木村 そうやろ。やけん、勤務形態の税理士が4割以上いるということなんですよ。

舩越 そうなると、こういう委員会なんかとか会に出にくいよね。勤務しているわけやから。

木村 委員会もそうだし、例えば税務支援なんていうのもできない。だから、勤務税理士、勤務している税理士が税務支援で出てくると、事務所に戻ったらこんな書類が山積みになって。親分が出したくないという話よね。そういうのが。今の税理士の半分近くがそういう立場なので。

赤川 先週税理士を辞めた後輩、13下の後輩の事務所に行ってみたんよ。そうしたら、恐らく税理士法人の中の社員先生、五人もいて、私は雇われですからと言っている。先代がミロクのユーザーなんです。女子職員も研修会に来いと言ってきたけど、誰がじゃあ行かせてくれるんだろうということになるわね。

大久保 地区会にそれぞれ働きかけていかないけんけど、若い会員が委員として上がってくる率というのは低いと思うんです。

木村 税理士会でもそういう議論はずっとあるよね。

赤川 逆に我々も若い先生が、この人は優秀だとか、交流がないと分らんもんね。どんな人物かも分らん。ただ、名前で名簿を見るようになった。

木村 税理士法にも問題があつて、2か所事務所を禁止じゃない。だから、在宅はどうなのかという話が常にある。でも、若い連中は納得できんのよね。何で在宅でやっちゃ駄目なんですかと。何で事務所を設けなきゃいけないんですかと。今のネット社会だったら、どこでも仕事できるじゃないですかというのがあるよね。

大久保 今回のコロナで大分進んだなという気もするけどね、在宅に関しては。

木村 いや、進んだかどうかは。問題を先送りしているだけのようにあるよね。事務所の職員の在宅はいいんですよ。いいという見解が出たやろ。だけど、税理士が事務所を持たずにやれるかという話になると、そこはちょっと問題を先送り。

舩越 だから、それは自宅を事務所にするしかないわけや。だけど、それは形式的な話やけんね、便法みたいなもんやけん。

木村 登録調査委員会でも、どのぐらい前のことかな、1坪もない事務所の登録申請が上がってきて。レンタルオフィスみたいなやつ。

舩越 ああ、天神やらにある、それを事務所に。

木村 それを事務所の申請出して、日税連でもめたんですよ。あれは事務所の体を成しとらんだらうと。ところが、ネットで全て書類は見ている。申告も全部電子です。書類の保管も全部PDFで保管している。来客スペースもある。電話は携帯電話だと。認めざるを得んやらうと。

舩越 まあ、そうだね。ただ、今の若い先生の場合はなかなか飯が食えんからね。だから、いかに経費を抑えるかというのが一番じゃらうけんね。

外園 システム開発委員会は今回、新しいメンバーを入れてと桑原君にお願いして、笹田先生のところの税理士さんを出してくれることをお願いしたんですね。あとは北九州と鹿児島から若い先生が何人も入って。

桑原 北九州から2人、福岡から3人、鹿児島から1人入られてます。

外園 ええ。若い先生も何人かいらっしゃる。そういう方たちが入ってくればいいけど、やっぱりこっちも気を遣わないかんから。仕事があつて初めてこちらだからですね。

逆にユーザーにしても、今まで2人の先生がそれぞれユーザーであったのが、税理士法人になったら1ユーザーになっちゃうわけだから、会員も減ってくるか

も分からんし、言い方は悪いけどですね。そういうときにどういう対応をしていくのかというのはやっぱり考えていかないかんだろうなと思うんですよね。

船越 それはシステムだけじゃなくて。

外園 いえ、会全体ですよ。やっぱり何だかんだで数は力だからですね。数が減ってくればやっぱり困るわけだからですね。そういうのは今後の何かテーマとして考えていかんと、例えば3人の先生が、例えば船越先生と木村先生と僕が、じゃあ税理士法人つくるといったら、3ユーザーが1ユーザーになっちゃうわけでしょう。

船越 だけどそれは、3人とも入る。それぞれが4人分払う。税理士法人と税理士と。

桑原 いいえ。税理士法人でも1人分です。その話を前、理事会で出していたらどうしたんですよね。野田先生が総務委員長のときです。いや、ちょっとまだそれはちゃんと考えをまとめてからと。理事会で出していたいただいたのは、税理士法人が複数箇所あった場合、それは別ということになりました。それでは、一つの事務所で複数人会員がいらっしまった場合というのは理事会で言っていたらどうしたんですよ。

大久保 僕が財務委員長のときにその話をちょっとしたら、桑野先生が「おかしいね、これはそうか。それはこうこうこういうことか」と言うて、僕はしどろもどろになった記憶がある。

船越 研修会の費用はどげなると。会計人会のメンバーいうて、税理士法人がメンバーやったら、どげなると。

桑原 会員価格に加え1事務所1人目だけ1,000円補助があります。例えば1事務所3人受講者がいらっしまったら、1人目だけが会員価格に1,000円補助があって、あとの2人の方は会員価格です。

船越 じゃ、まともに払う？

桑原 そうです。

外園 でも、今後の会を成り立たせるためには一つのテーマとして考えていかんと。やっぱり何のかの言いながら、活動が活発化すればするほどお金がなくなっていくわけだからですね。

船越 そして、おまけに数は力なりで、結局活動を活発にしようと思えば、それなりにやっぱり考えないかん。税理士法人が半分以上あるよという時代が来ると思う。

外園 先々なるでしょうね。

船越 今は独立するよりも勤務のほうが楽でいいやという人が多いから。

外園 新入会員の今、7割ぐらいが所属税理士よね。

独立するのは3割。最近は多分そのくらいだと思いますよ。

木村 あと、相変わらず女性税理士が少ないよね。

大久保 今、1万1,000人強かな？

赤川 33分の8。

外園 ミロクの役員の方が女性の割合が低いですね。

大久保 国は管理職に女性の占める割合が30%を目指しているよね。

外園 でも、少ないですね、本当。この前、熊本に行ったじゃないですか。熊本は女性の税理士3人来てあったですね、大会の実行委員会で。

外園 ところでどうなんですかね。もしコロナ禍が終わったとしても、今回ほら、Zoom研修みたいな形がうまくいき始めたじゃないですか。

船越 だから、Web研修が増えると思うよ。

外園 僕もそう思うんですよね。わざわざ出かなくてもいい。今まではビデオを借りてきて自分のところで見るというイメージだったけど、そうじゃなくて、リアルタイムで見て、そこでするという感じだから、これは継続するんじゃないかなと思うんですよね。

赤川 でも、変な話、その画面では、受けて、途中で席を外しても分からん。

外園 そうですね。

赤川 効果測定が困る。

船越 それはもうしょうがないですよ。それを言い出したら。

外園 でも、あとは本人が受けるか、受けんかだけの話であって。

船越 研修というのは自分のためにやるけんね。

大久保 ミロクの研修をWebで受けて、認定研修はどうやって登録するの？

外園 一応、番号は何もないから。

矢野 Zoomで最後に出席者をリストで出せるんですよ。何時に入って何時に退室したというのは分かるので……。

外園 調べることはできるんだ。

矢野 調べることはできます。なので、参加された方だけに認定の申請を出すようにはしてます。

外園 でも、これが多分もっと増えていくと思うんですよ。だから、それこそ



外園 明氏

Zoom、カメラはこっちはつける必要ないから、こっちのカメラは消しとつても、入室したら時間は全部分かるから。だから、今後ミロクは、今の研修というのが、今度研修の質をもう少し高めて。高めるって言ったら語弊がある、今の先生が悪いというわけではないけど、数を増やしたり何かしていかなと、研修会があるからミロクの会計人会に入ったという会員がどうなるか、今後の動向として変わっていくかも分からないですよ。

RPA って何？

AI・IT でさらに進む環境の変化

木村 会計会のこれから話して、いわゆるミロクのシステムのユーザーっていうのが変わってくる可能性がある。今でも既にそうなんだけど。結局、市販のソフトを使ったユーザーが増えてくるだろうし。それは会社がどう頑張るかの問題もあるけどね。だから、



木村 好晴 氏

会計会のこれからといってもなかなか、どれぐらい……。5年ぐらいは間違いないでしょう。10年になると分からんよね。

外園 10年先は見えないですね。

船越 もっと便利になるとか。どうなるんやろ、これから。

木村 我々の顧問先も変わりますよ。

外園 システム上はある意味じゃ進んでるとか、他社と変わらんぐらいとか、結構先に行ってる場所もあれば遅れてるところも確かにあると思うんですよ。ただ、それを、いつも話をするんですけど、例えばレシートでも読み取れば、それこそ手で入力しなくても読み取れる、そういうのを皆さんが買ったことがない、使わない、ミロクとしては進めているかどうかは分かりませんが、あまり聞かない。ほんとやったら、顧問先のお客さんのところでもそれができるわけ。

赤川 できるんですか。

外園 ええ。そうすれば、今、手入力してるよりは、お客さんにとっては。ただ、事務所としては多分、事

務所の職員の手で入れたがよっぽど早いと思います。ただ、間違いは少なくなると思います。正確性は機械のほうかもしれんけど、スピード性は多分、職員さんが手で入れたがまだ早いのかも分からないです。でも、そういうこともあることを知らない先生が大部分だと思います。

木村 ただ、そこら辺、ノウハウに近いところをどこまでオープンにするかなんです。

船越 ただ、「システム委員会だより」だってそうだよ。今でこそ何ていうことはないかもしれないけど、摘要の扱い方とか、そういうことから始めとっちゃけど、それやったら、やっぱり使っていない人から見れば、こんなことできるんかって習うわけやから。

木村 それはあなたの心が広いから。

船越 いや、そういう、俺がどうのこうのじゃない。あれは、強制的に書けって言われたから。

外園 だから、ミロクのシステムは、使う人にとって、どうにでも使えるって言ったら語弊があるかも分からんけども、事務所独自にこういうやり方で使おうやって言ったら使える部分があるんですよ。確立されていない部分があって。

船越 MJSのソフトだけ知っとけばできるっていう部分ぐらいには抑えとかないかんよ。そのときに、パソコンのどうのこうのっていう……。

外園 でも、システムとしてはあるんですよ。例えば、長崎の松本先生のところとか、それこそエクセルで作って、この中に入れてもらったら、工事費が全部取り込める形に、取り込むほうをちゃんと設定してるわけですよ。だから、みんなエクセルで数字だけ入れてもらえば全部うちのほうで取り込めますし、取り込んだときは工事原価も全部できますということを彼は彼の事務所で作ってる。そういういろんなノウハウもあるんですよ。だから、そういう形で使えるんです。

だから、どこまでそれを教えるか。それをどうするかっていうのもやっぱり今後の課題かも分かんないなっていう気はしますね。

船越 じゃあ、次のシステム委員会だよりにするわけ？

外園 若い人に委員長を代わってもらおう。(笑)でもね、そんな感じで進んでる。進んでる先生はすごく進んで、言い方悪いけども、楽しとるっていう言い方も分からんけども、すごく今まで苦労しとったのが楽に何もかんもできるような先生も一部はいらっしゃいます。で、昔みたいに、うちみたいに泥臭く今までしよるのもある。この差は結構やっぱり。前から言うじゃないですか、上級者、中級者、初級者って。それが結構差が離れてきたんじゃないかという気もせんでもな

いです。

船越 今、パソコンだったら、それが激しい。

外園 そうですね、はい。昔からのユーザーの人は、やっぱり進める人もいらっしゃる、いろいろあると思いますよね。だから、何か時代がほんと全然変わってきたなっていうのは、ほんと実感、思いますよね。

木村 ほんと、ここ30年、40年の。

外園 今後はRPAっていうのを、今、一生懸命言われてるじゃないですか。

船越 RPA？

外園 コンピューターソフトが別のソフトを使うっていう形なんですよ。RPAのソフトを入れといて、うちのミロクのシステムを夜の10時になったら立ち上げて、この部分を開いて、この分の打ち出しを設定すると。

船越 それでできると。

外園 ええ、できるんですよ、それが。例えば、一番分かりやすいのは所得税の確定申告の申告書の打ち出しを、夜中、みんな帰った後に打ち出させようとRPAに設定しとけば、夜中の間に打ち出して、朝来たらちゃんと出来上がってるとか。

船越 ああ、システムを起こして、自分ですと。

外園 うん。それとか、よく言われてるのが、例えば毎日お客さんからデータをメールで送ってくる場所があります。例えばエクセルに入れたデータ、それを毎日取り込むときに、夜中のうちにそのメールを開く、そしてどここのエクセルデータを引っ張り出して、ここの中に取り込むというようなことをさせることができるソフトがあるんです。ただ、バックアップが夜中なんですよ。バックアップソフトとそのRPAがかぶっちゃうんで、時間帯の調整をよくやっとかんと、バックアップが取れんで終わってしまう可能性があるんです。それが今、課題と言えば課題かも分かんないですけど。

船越 RPAというのは時間帯が決まってるわけ？

外園 自分でそのソフトを何でも設定できるんです。

船越 いやいや、時間もかぶらんと設定すればいいじゃない。

外園 だけど、その作業がどこで終わるかが分からないです。ここで始めた作業が2時間で必ず終わるとは限らないわけでしょう、ものによっては。例えば2時に動き始めました、4時からバックアップ取りますというときに、必ず4時にこれが終わってるかどうか分からないわけじゃないですか。

船越 ああ、そういう意味。

外園 はい。地震にしたってそうですよ。今、データ

をうちはハードディスクにバックアップですけど、もう多分クラウドに取っとなないと、地震が来た、火災になったってときに、データが全部飛びますよって。お客さんのデータは基本的に今うちは全部クラウドに飛ばして、クラウド上に保管してますけども。昔はデータをUSBでやり取りしてましたが、今はクラウドにしています。今度事務所のデータも多分クラウドに。先々はそうせざるを得んごとなると思いますよ。

船越 そろそろ税理士廃業せないかん。

外園 僕、だからシステム委員長を降ろさせてくださいという話をしようかと思って……。

赤川 長生きしたくなくなったな。

外園 でも、この前、ミロクでRPAの研修会をしたんですよ、博多駅のところで。そのとき何人、100人やったか50人やったか。

鈴木 100です。

外園 100人。で、僕たちの世代は10%ぐらいしか来ないですよ。みんな20代、30代です。事務所の若い職員さんたちばかりで、最初は「これ、何の話？」っていうぐらい。内容は知ってたけども、何の話っていう感じ。周りの人はみんな若者しかおらんっちゃわ。年寄りも浮いとるなと思いました。そういう時代になりました。

船越 若い連中は頭にすいすい入るんやろうな。

外園 多分そうだと思います。私たちがいないところから始まったパソコン、彼らはパソコンが日常にある中でだから、全然違うと思いますね。

赤川 そうやな、世代交代で。あんた、「鬼滅の刃」の映画見た？全然ストーリーが分からなかった。それと一緒に、ついて行けん。

船越 そういうもんだらうね。

■ 企業寿命30年、税理士稼業も30年？ 会計人会のこれから

赤川 大昔、コンピューター会計から入っとるけん。

外園 ああ。名刺に入って、看板に入って、コンピューター会計って。

船越 コンピューターでしよるんぞって。

外園 今どきコンピューター会計って当たり前ですけど、昔は看板に載ってましたもんね。うちも最初の封筒には、コンピューター会計って入ってた気がします。

大久保 まだおるよ、そういう名刺持ってる人。

船越 これからちゅうのは、またぱっと変わってくるな。

外園 変わってくるでしょうね、これから先。さっき、

木村先生が10年先は見えんって。

赤川 そんなときに、今のジレンマが、お客さんの顧問料がだんだん低下していく、1件単価が。安く安くなってみんな思いよる。

外園 そういう形だからシステムの追いかけていくと。

木村 だけど、20年前と比べて、事務所の人件費も下がったと思うんですよ、総額でいうと。

船越 残業ないけんね。

木村 残業ないでしょう。職員数も多分減ってると思うんですよ。同じ業務をやるのに。だから、そういう意味では、まあやっていけないことはないよね。

赤川 僕は最初の頃は、バイトを含めて14人でした。今は6人で、売上げは一緒やもんね。2000時間を切ってるもんね。

木村 だから、そういうふうに効率を上げるのも、システムがあるからですよ。

赤川 それ、嫌味言われる「あんた何、人様に言うとき気をつけり。昔はそろばんでしよったとか、昔のばっかり言いよる」と。そうか、年取ったなと思う。

外園 そうですもんね、そろばんでしたからね。

木村 顧問先の顧問料が減ってもやっていける時代ではあると思いますよね。昔みたいに、ぼろもうけはできんかもしれんけど。

赤川 料金体系もあったけんね。

外園 税理士法で決めとったからですね。

赤川 顧問料と記帳料、2階建て。

船越 俺らが独立するときには、もう淘汰されてほとんど。

木村 バブルがあったらうもん。

船越 バブルは終わるとる。おれが事務所90年や。90年って昭和何年。

外園 バブルって言ったら、昭和63、64、平成元年ですよ。だから、もう開業してます。九州大会してるはずです。バブルの前に開業してます。僕が開業してちょうど35年ですから、昭和60年に登録ですから。

木村 ころうじてね。

船越 俺が昔、それこそ開業してすぐの頃かな。僕と一緒に登録した人が話しよったとが、俺、職員1人に1台ずつ機械を与えたって。そしたら、機械を待つ



赤川 治之氏

とかないかんちいうことないけど、人件費、効率的に使えようがという話をしたんですよ。そんなら、先生、そんなばかな話やろうもん、機械自体をみんなでゆくり……。

外園 順繰り使いよったでしょう。

船越 順繰り使えって言われたもんね。だけん、そんなときは結局、機械が高かったっちゃうね。

赤川 今は1人1台当たり前ですね。売りつけに来る。デスクの数だけ機械を置いてって。

外園 ですね。ただ、ミロクも変わるかも分からないです。いつも話をしてるけど、例えば相続税は、うち二、三年に1回しかせんって言ったら、相続税を受けたときにだけ半月間だけ借りる。で、終わったら、データは残すけどもソフトは返す。

船越 確かに相続税のほうはそうね、年に3件も4件もするっていう人はなかなかおらん。

外園 それが変わってきたからですね。今後5Gになったら、いよいよ通信状況がよくなれば、さくさく動くようになれば、そんな感じにも変わるだろうし、クラウドってさっきから言うのは、そういう時代が当たり前ようになって、どこでも仕事ができますよって。

赤川 さっきおっしゃった先進な人と、後発、混沌と今、一緒におるんやな。

木村 だから、会計人会も税理士会もそうなんだけど、昔は最低限のレベルに合わせてずっとやってきた。だから、研修会のテーマもそうだし、会の施策自体もそうだし。ところが、そうやってたらもう間に合わんから。だから、このぐらいのレベルに合わせてやらないと、あとの人はどうする、ついて来れなきゃもうしようがない、切り捨てざるを得ないというふうな形でいいのかどうか。そこも問題ですよ。

外園 うん、難しいところですよ。

木村 今、電子化の情報とか対策をずっとやってたんですよ、電子申告をやるうって。船越さんみたいに、電子申告なんか定着するもんかって言う人もおるわけよ。ねえ。

船越 法人はしないけど、個人はするよ。

木村 いやいや、あんた言ったやん。電子申告なんか誰が定



九州の風91号(平成30年1月発行)

着するもんかって。

船越 言ったね。

外園 桑野先生も言いよったね。

赤川 最初は言うけどな、やっぱせざるを得ん時代になってくる。

木村 だから、そういうふうな人はもう見捨てるしかないというふうになってきつつあるんでしょうね。

外園 税理士会は強制加入だけど、ミロク会計人会は強制加入じゃないわけだから、その辺のジレンマというのはやっぱりありますよね。

木村 ジレンマって言ったけど、もう思い切ってやるしかない。

赤川 ということは税理士の賞味期限はせいぜい30年か。

外園 僕、もう35年、切れてしまいました。

木村 多分我々が開業して、コンピューターをばりばり使い始めた頃の先生方は同じように思った。

外園 思ったたでしょうね。

船越 だって、最初の頃はコードパンチャーから入った人がおったでしょうね、古い先生は。

船越 勤務した事務所がコードパンチャーやったかな、それを入れたときにミロクになったっちゃ。俺が開業したときに、ACE100やった。

外園 漢字が使えなかったですね、最初ね。

船越 だから、それがACE100やった。それを、ああ、これは新しい、これいいなと思ったけど、すぐACE200が出たけん、これならなおよかたいて、200を1台買ったかな。

外園 それこそ僕が税理士になるちょっと前ぐらいですよ、35、6年前。100が出て、200が出て、250が出て、280が出たですよ。

大久保 うち、最初の頃は50音のキーボードやった。

外園 ああ、あいうえおって、縦に並んどったやつ。

大久保 あれがどのぐらいやったかな。

外園 あれは多分、結構長く続いたんですよ、パソコンになるまで。あれ、使いやすいかった。漢字も一タペンで拾っていくやつ。

大久保 あれは使い慣れとった。そういうのは今のうちに記録しとかないかな。

外園 ミロクも残ってないって言いますもんね、古い機種が。

桑原 武雄の山口先生のところにあります。

外園 ああ、残ってる、まだ。物持ちがいいね。

船越 2年ぐらいそれやったんよ。そしたら、200の次に250が出たわけよ。そしたら、メモリーが大きくなったんよ。だから、総勘定元帳が2冊に分かれよ

たが1冊にできるよになった。それで、替えてよって言ったら、いつの間にか、ハードディスクのところだけ交換するごとキットみたいなのを売り出した。それで250も3台ぐらい使ったよ。

木村 もうかつとるですな。

船越 違う違う、それ

はもう俺の考え方で。コピーは要らんやった。コピーはベスト電器に行けばあると。だけど、コンピューターはベスト電器に行っただけでなからうがって。

赤川 大変やなって。

木村 250を3台も買える余裕がある。

船越 中古を探させたんですよ。

外園 あの頃は専用マシンやったから高かったですよ、パソコンと違ったから。オフコンって言われとった時代だからですね。

大久保 500万ぐらいしよったでしょう。

外園 そんな記憶があります。

赤川 ある税理士の台帳のコンピューターちゅうのが900万ち言いよった。その代わり、仮名交じり。

船越 だから、今の人のほうが開業はしやすいんよね、ほんとは。

赤川 そうそう。

船越 パソコン、全部セットで、ソフトまでセットで100万ぐらいであるやろ。

外園 ミロクのスターターセットで、顧問先の限定数がありますけど、多分100万ぐらいでできるだろうと思います。ほんとはスターターセットがあって。その代わり顧問先の数が決まってるんですね。20とか、あるんです。それからしてもらえばいいんですけど。

船越 20とかじゃなくて、顧問先が何件あるうが、そのスターターでいいやん、ねえ。

外園 それ、こっちに言って。もうこれ以上、営業に関わるのはいかんけん。

空閑 そろそろ時間が。ありがとうございます。ちょっとお話が飛んだりしましたので、ちょっと編集させていただきます。

一応確認の原稿を見てもらってから発行したいと思います。あまり文句はつけられないようお願いいたします。(笑)

船越 お疲れさまでした。



空閑 秀樹氏



創刊

号記念

100号発行に寄せて

継続は力なり

福岡地区会 濱崎 光夫

事務局より、「九州の風（以下「風」といいます）が令和3年1月号で発行100号を達成するのお知らせを頂き、長年「会」の運営につきず離れずおつき合ひして参りました私としましても、誠に感慨深いものがございました。

「風」は概ね年間3回程度発行しておりますから、単純計算しましても、30数年間発行し続けている勘定になります。

「継続は力なり」とは、よく使われる言葉ですが、ひとくちに100号とか30年間と申しましても、ひとつの事業を営々と継続維持することの困難さは、それに直接携わった担当の皆さんはもちろんのこと、毎度「風」を読ませて頂いている私ども会員にとりましても、大いに理解できることです。

話は変わりますが、以前、私が「会」の執行に携わっていた頃、理事会や総会の席で絶えず寄せられた意見のひとつに「会」のメリット論、がありました。

理事会等で「会員増強」が議題として出される度に、出席理事等から、「会員の勧誘」はしたいけど、勧誘相手から「入会してもよいが、会員になった場合のメリットは何ですか？」との質問が必ずと言ってよいくらい出される。そ

のときにどのように答えればよいか～その対応に苦慮している』という意見が多く出されたことを思い出します。

当時、私も「会」のメリットについて感覚的には分かっていたつもりですが、いざ正面から問いかげられると、なかなか説得力のある答えが浮かばなかったことを覚えています。

しかしながら～その後「風」が発行されるようになり、「会」の活動内容（メリットを含めて）に対する認識を深めて頂くためにどれほど効果的であったか～「風」が長年に亘って果たした役割の大きさを、改めて認識しないわけにはいかないと思います。

「風」の構成内容は、時代の流れにより鋭意変遷してきているとは思いますが、その基本的な理念は、あくまでも「会」に関する情報を会員に適格に伝えるという～その軸は変わっていないと思いますし、むしろ「奇をてらう、ような企画は避けて、マンネリと思われるくらいの頑固さで基本理念を追い続けてきた結果が、現在の「風」の品位と安定感を支えているのではないのでしょうか。

最後になりましたが、歴代の広報委員会並びに執行部の皆さまの「風」発行のために尽くされたご苦勞に感謝申し上げますとともに、これからも150号～200号を目指して何とぞよろしくお願い申し上げます次第です。



「九州の風」の役割は 情報発信と会員交流の場

佐賀地区会 山口 征也

1965年（S 40）の初め頃から計算センターでデータを処理するシステムのオフコン時代が始まり、私は、1970年（S 45）にミロクのコードパンチャー I（穿孔テープ作成の端末機）を導入しました。

1975年（S 50）に、全国のMJSユーザーの任意団体であるミロク会計人協議会が設立され、1980年（S 55）に名称をミロク会計人連合会と改めて、全国各地の会計人会の横の会員活動がより強固になりました。

ユーザー会である九州ミロク会計人会が発足したのは1975年（S 50）で、創立時の理事メンバーの一員として、より良い組織を作り上げるための、貴重な体験ができた事に感謝しています。

九州会の会員確保では、佐賀地区会は当初全ユーザーに少ない予算を工面して、研修会の案内状を発送し加入勧奨に努力しましたが、他社の機器を導入されている方のミロク会計人会への入会は殆ど見込めませんでした。

現在はMJSが機器発売時に加入勧奨をして頂くことや、会員各位の努力で九州ミロク会計人会は640余名を抱える組織となりました。

運営資金面では、会員が生命保険に加入し、その収入手数料やグループ保険無事故配当金の一部（1/2）を九州会に寄附（特別研修基金）して頂くなど、潤沢な運営資金の確保が出来るようになり、会員個人の会費負担の軽減に繋がりました。年を追うごとにMJSからも各種の補助金を多く頂けるようになり、会員の研修会参加費用も会員特典を設けて頂くようになりました。

九州会単独の研修会開催に当たっては、特別研修基金の積立金を使い、第一回は九州ミロク

会計人会統一研修会が昭和62年九重で・第二回は平成3年霧島で開催、第三回目は、平成9年全国統一研修会・福岡大会での基調講演と分科会方式を提案し、分科会費用を負担しました。第四回目は平成21年全国統一研修会・鹿児島大会で、バスをチャーターして地区会員の参加の利便性・屋久島観光旅行企画など九州会会員の負担軽減が図られました。

全国統一研修会へは、九州会からは毎回100名を超える全国一の参加率で、全国大会を盛り上げています。

なお、九州会からは全国大会参加会員事務所への参加補助金が支給されています。

1987年（S 62）には九州ミロク会計人会発行の機関誌「九州の風」が創刊されました。

連合会の活動報告やMJSとのシステムに対する協議情報などをお知らせする一方、九州ミロク会計人会会員相互の研修・交流や情報交換・親睦を深める媒体として重要な役割を担っています。

表紙には地区会のお宝を紹介する写真が掲載されています。

「システムQ & A」は皆さんのからのシステムに関する要望が、MJSと、システム委員会との協議を重ねてより良いシステムの利用方法へと改善された事項が掲載されています。

九州会総会の記念講演を記事に起こし、講師の貴重なお話がお伝えできています。

「会員のひろば」では、各地区会の特色のある活動状況が紹介されています。

「九州の風」の役割は、MJSとはシステムの改善策で絆を深め、会員には会員相互の交流や会員事務所の運営に役立つ重要な情報の伝達をしています。

九州ミロク会計人会の運営に携わる理事や各委員会の方々のご努力に感謝し、会員諸兄の温かいご支援・ご投稿を願い、「九州の風」が益々会員交流の媒体として発展していくことを祈念いたします。

令和2年12月7日、九州会システム開発委員会とMJS本社開発担当者との間で、恒例になっていますシステム改善要望検討会を開催しました。今回も事前に会員の皆様に改善要望アンケートを取らせていただき、その内容を検討するというものでした。会員の皆様、たくさんの改善要望を頂き、ありがとうございました。

今回も紙面の都合で「会計大将」「所得税確定申告」の回答を掲載させていただき、次号(6月号)に他のシステムを掲載します。

会報の紙面の関係上、改善の「対応済み」「対応予定」「運用で対応可能」を中心に会報掲載しておりますので、そのような形になっております。そこで、今回の改善要望につきましましては、すべての質問内容および回答について今春を目途に九州ミ

ロク会計人会のホームページ『会員の部屋』にアップする予定です。

最後に、MJSから毎月届いているチャンネルの令和2年12月号に「システム開発委員会からのご案内」として毎回お知らせしております「機能追加・改良一覧」のダイジェスト版を同封してお送りいたしました。全体は、ミロク会計人会連合会のホームページに、年2回機能追加一覧をアップしています。こちらも是非ご確認ください。

九州ミロク会計人会

<http://www.kyushukai.ne.jp/cgi-bin/1/index.php>

ミロク会計人会連合会

<http://www.mirokukai.ne.jp/>

Q&Aの記載方法

NX…ACELINK NX-Pro

◎…対応している

■…運用で対応可能

○…対応する予定

△…調査・検討

会計大将

Q-1 (NX ■)

仕訳入力時、電卓計算後の金額入力をテンキーで行えるようにしてほしい。

A 電卓の[RET]ボタンはキーボードでは[F4]キーに割り当てられております。テンキーは電卓用の機能としてすべて割り当てられておりますので、こちらに割り当てることはできません。ご容赦ください。

Q-2 (NX ■)

比較財務報告書の補助コード出力をまとめて開いて印刷できる様にしてほしい。(手動で一つつしかできない為)

A 科目出力順序を新設いただき、必要な科目の必

要な科目別補助を「1 あり」に設定頂ければ、ご希望に近い印刷が可能と考えます。

Q-3 (NX ■)

会計大将の仕訳入力を使う際、コピー&ペーストを利用できるよう改善してほしい。(金額のみ、空欄 or 0)

(仕入) 100 (複合) 100 【税 8%】

【摘要: 〇〇〇代として】

(仕入) 100 (複合) 100 【税 10%】

【摘要: 〇〇〇代として】

(複合) 100 (買掛金) 100

【摘要: 〇〇〇代として】

↓コピー&ペースト

(仕入) 空欄 or 0 (複合) 空欄 or 0 【税 8%】

【摘要: 〇〇〇代として】

(仕入) 空欄 or 0 (複合) 空欄 or 0 【税 10%】

【摘要: 〇〇〇代として】

(複合) 空欄 orO (買掛金) 空欄 orO

【摘要：○○○代として】

A 金額を空欄にした上でコピーされたいということは、使用頻度が高い汎用的な仕訳と思われますので、定型仕訳として登録される運用をご検討ください。

Q-4 (NX △)

会計大将を来期に引き継ぐ際、91～93月、決算月を参考資料として引き継ぎ、翌期入力の際、上記参考画面から前期を参考にしつつ入力ができるようにしてほしい。

A 仕訳のコピー機能につきまして、今後の開発の参考とさせていただきます。

Q-5 (NX △)

年度の違う過去仕訳、振伝などもコピー入力できるようにしてほしい。

A 仕訳のコピー機能につきまして、今後の開発の参考とさせていただきます。

Q-6 (NX ■)

工事管理表から直接該当の仕訳を開きたい。
(例) 工事名をダブルクリックすると、工事ごとの原価の内訳(仕訳)画面が開く等…

A 工事の仕訳の確認は売上を含めて仕訳帳(F8 その他条件/部門・補助範囲タブ/工事範囲)で設定が可能ですので、こちらでの運用をご検討ください。

Q-7 (NX ■)

仕訳検索などで抽出したものを一括修正したい。
(例) 摘要欄で「※」を検索して、一括で消費税コードを軽減税率に変更する等…

A 仕訳帳にある一括置換の機能をご利用ください。

※税率の一括置換は税込仕訳に限定されております。できない機能があれば、別途、ご連絡ください。

Q-8 (NX ■)

会社名を検索しようとした時、仮名にならず英文字に変わってしまい、時間ロスになっている。改善していただきたい。(そうなるとマウスを一旦左の会計大将でクリックしないとかならない。)

A Windowsの設定>時刻と言語>言語>スペルチェック、入力、およびキーボードの設定>キーボードの詳細設定>「アプリウィンドウごとに異なる入力方式を設定する」のチェックをONに変更してお試しください。

Q-9 (NX ■)

会計大将入力時の最初のホームウィンドウで個人、会社、顧問先で無くなったお得意様(廃業他)が並んでいる。自由に並び替えができる様に改善してほしい。

A 顧問先情報で関与終了の登録をして頂くことで会社選択の一覧に表示しない運用が可能です。

Q-10 (NX ■)

仕訳入力画面に税法上の交際費を認識するための入力欄を設けてほしい。

これに加えて印刷処理に科目別の交際費額が把握できる「税法上の交際費一覧」を設けてほしい。

A 摘要残高の管理をした固定摘要を使用することで運用することができないかご検討ください。

Q-11 (NX ■)

仕訳入力→固定摘要登録画面でのマスター検索で、
①摘要のフリガナでも検索できる様にしてほしい。
②例えば「福岡銀行 ○○支店」を検索したいときに、検索欄に「福岡銀行」だけ入れた場合「福岡銀行△△支店」を先のコード番号で登録していたら、それだけが表示されて他にも検索条件に該当する摘要があるはずなのに探すことができない。

Wordの文章内の単語検索のように、検索条件に該当する摘要を順番に表示できるようにしてほしい。

A ①については、フリガナをシステムの「連想」で管理している前提で回答致します。その場合はマスター検索ではなく、詳細画面のコード欄から表示できる「検索エクスペローラー」を使用する運用をご検討ください。「検索エクスペローラー」を表示した後、ツールバーにある「検索」ボタンを押下すると連想欄が表示されますので、そちらに検索したい連想を入力してください。入力すると、右側に候補が表示されます。

②については、マスター検索ダイアログで最初の該当マスターを表示後、続けて[F3]キーを押下することで次の候補が表示されます。希望のマスターが表示されるまで[F3]キーを押下してみてください。

い。次の候補が無い場合は、「最後まで検索しました。」のメッセージが表示されます。

Q-12 (NX ■)

汎用データ交換でインポート処理した時、補助科目コードに対応した補助名を摘要に表示させてほしい。

A 摘要に特殊摘要を使用してインポートすることで補助名を摘要に表示することができます。データ交換のマニュアルの「1.4.3 仕訳情報を登録する」(P22)を参照するようにしてください。

Q-13 (NX ■)

OCR (会計) 共通仕入れの軽減税率コードを設定してほしい。(現在 99)

A 消費税率の記入欄がないOCR伝票では、共通仕入れの軽減税率に対応した消費税コードはありません。(内税、外税の両方) 消費税コード・消費税率の記入欄があるOCR伝票で運用回避するようにしてください。

Q-14 (NX ■)

総勘定元帳出力条件に「補助を外す(出力しない)」を入れてほしい。

A 補助を採用している科目を除外したいというご要望と理解して回答いたします。

出力条件設定ダイアログの「補助科目合計転記」にチェックをつけることにより、合計額のみが表示が可能となっております。そちらで運用回避が可能かご検討ください。

Q-15 (NX ■)

表計算入力シート作成で、翌期分を作成できるようにしてほしい。

A 翌期更新した場合はマスタ等が変更される場合もあり、翌期分のEXCELを作成できるようにしてしまうと、仕訳が取り込めない等のケースが発生してしまい、運用が煩雑となってしまいます。翌期更新後のデータでEXCELを作成してください。ご容赦ください。

Q-16 (NX ■)

科目別消費税登録で消費税率の設定選択で消費税コードと同様に「なし」という設定を選択できるようにしてほしい。(入力で消費税コードと同様に税率の所で止まって入力できる方が、金額欄から戻って修

正するより楽かなと思う)

A 「仕訳操作情報」(「8. 共通設定」>「1. 共通設定」)で消費税率の入力方法を設定できます。

⇒入力方法を「消費税率欄でウィンドウ選択方式」-「常に消費税率を入力する」と設定していただくことで、消費税率を自動表示した上で入力欄に止まるようになりますので、金額欄から戻らずに入力することができます。

Q-17 (NX ■)

一つの複合処理をクリックするだけで、当該取引の振替仕訳全体を確認できるようにしてほしい。

A 仕訳入力の元帳は、日付と伝票 No を絞込条件とした仕訳帳へドリルダウン機能がありますので、そちらをお試しください。

Q-18 (NX ◎)

該当の仕訳を選んで(摘要や金額など)、一括で削除できるようにしてほしい。

(現在は削除したい検索ナンバーを選んで一括削除はできるが、仕訳を限定して一括削除できない。例えば、ゼロで入っている仕訳を選んで、一括削除するというようなこと)

A 一括削除も仕訳帳と同様に科目や金額、摘要の条件指定はできますのでお試しください。

Q-19 (NX ■)

推移財務報告書

「F1. 元帳」「F3. 部門」で表示されるように、前年金額も表示できるように改善してほしい。

※入力画面、残高試算表からも同時に

A 推移財務報告書の出力条件設定ダイアログにあります前期から出力するのチェックでの運用をご検討ください。

Q-20 (NX ■)

固定摘要をもっと整理しやすくしてほしい。

A 現在どのように整理されているかが分からないので、下記の回答となります。未使用の固定摘要の削除や摘要残高をクリアを行いたい場合、『固定摘要ユーティリティ』処理をご利用ください。

コード変更を行いたい場合は『各種コード変更』

処理をご利用下さい。※使用方法についてはヘルプやマニュアルを参照してください。

Q-21 (NX ■)

16 キャッシュ・フロー計算書を作成する時、全て連動しないのが残念です。

特に、「5. 導入・登録→4. キャッシュ・フロー→05. 財務連動要約科目」と「3. 決算・報告書→1. 決算書→キャッシュ・フロー計算書 11～」各々別に設定が二重に必要なのが不便。どちらかで設定することで連動すると良い。オプション機能だからということでしたが、オプション機能を追加した方が有利のようにシステム改善してほしい。

A 財務連動につきましては、『財務連動要約科目』の設定を基本として連動し、連動後、連動先科目の微調整を行いたい場合に『要約科目情報』の「要約コード」を手動で変更することを想定しています。そのため、『財務連動要約科目』で連動先の要約会計科目を厳密に設定していれば、『要約科目情報』の「要約コード」の変更は不要です。もし、『財務連動要約科目』の要約会計科目が空欄で設定してあると、財務連動時は会計科目の分析コードに応じて自動判定して連動しますので、期待通りの要約科目に連動されない可能性があります。従って、『財務連動要約科目』の設定の見直しをご確認ください。

Q-22 (NX △)

翌4、5、6月分等の入力が可能になっているように、前期2、3、91、92、93月等11か月目・12か月目と決算修正月を参照して仕訳を入力できる様にしてほしい。

A 過年度データを参照した仕訳のコピー機能につきまして、今後の開発の参考とさせていただきます。

Q-23 (NX △)

仕訳コピー機能の改善。仕訳帳検索結果についてそのままコピー可能とすることや、定型仕訳登録ができる様にしてほしい。

A 仕訳のコピー機能につきまして、今後の開発の参考とさせていただきます。

Q-24 (NX ■)

「乖離情報登録」で設定したパターンが、「印刷処理」 「経営分析」の「一括印刷」でも反映されるようにしてほしい。

A 乖離チェック対象の帳票であれば経営分析の一括印刷ページで該当帳票を右クリックし、「詳細設定」を押下すると、設定ページが表示されます。そこで、「乖離をチェックする」をチェックすることで反映できます。

Q-25 (NX △)

顧問先管理→項目検索の画面で、検索結果が複数の場合、全項にチェックが入ってしまっている。「全解除」を選択できる様にしてほしい。

A [全選択]、[全解除] ボタンを追加する方向で対応を検討いたします。

Q-26 (NX ■)

付箋検索画面から仕訳入力ができる様にしてほしい。

A 仕訳入力の仕訳帳には、「その他条件」から付箋検索を行うことが可能です。そちらからの運用をご確認ください。

Q-27 (NX ◎)

経済産業省のローカルベンチマークを会計データから出せる様にしてほしい。

A Ver1.80として10月26日にご提供を開始しました。2.印刷処理→3.経営分析→11.ローカルベンチマークよりご利用ください。

Q-28 (NX ■)

「F2 固定摘要」は科目しぼりがあって、イレギュラー的に他の科目で使う時に選択肢に上がってこない。科目を超えてもNo.で呼び出せる様にほしい。

A 「F6 ウィンドウ切替」を押下することで、全件表示と切り替えることができますのでお試しください。

また、固定摘要コードが事前にわかっている場合、「F4 コード入力」では選択ウィンドウに表示されていなくても直接指定することができますので、併せてご利用ください。

Q-29 (NX ■)

印刷処理→比較財務報告書を表示した際に、比較対象として先ず予算が表示されており、前期比較を表示する際に毎回「条件」ボタンから変更しているため、Fnキーなどで予算/前期の切替ができる様にしてほしい。

A 「条件」ボタンを押下して表示される「出力条件設定」で「出力パターン」の登録が可能です。「前期」などカスタマイズした内容で初期表示が可能ですので、こちらでの運用をご検討ください。

Q-30 (NX ■)

その他→付箋検索で付箋を付した仕訳を表示した画面から、元帳にドリルダウンするか、仕訳を直接修正できる画面に移動できるようにしてほしい。

A 仕訳入力仕訳帳にあるその他条件では付箋の検索が可能になっております。こちらからであれば仕訳の修正が可能ですのでご検討ください。

Q-31 (NX ■)

仕訳帳などで付箋を右クリックした際に「はがす、備考修正…」と表示されるのを、「備考修正」を一番上にして、その次に「はがす」と表示するように設定できるようにしてほしい。

総勘定元帳から付箋の備考内容を確認する際に、誤って付箋をはがしてしまう事が多い。

A 申し訳ありません。誤操作が発生する経緯が不明のため、順番を入れ替えることで事故が防げるかどうか判断できませんでした。

代替方法として、付箋ポップアップが表示された後「U」キー（備考修正のショートカット）を押下する運用をご検討ください。

Q-32 (NX ■)

印刷処理→財務報告書で試算表を表示した際に、毎回「条件」ボタンに入ることなく、Fnキーなどで、補助科目の表示/非表示の切り替えができるようにしてほしい。

A 「条件」ボタンを押下して表示される「出力条件設定」で「出力パターン」の登録が可能です。カスタマイズした内容で初期表示が可能ですので、こちらでの運用をご検討ください。

Q-33 (NX ■)

印刷処理→財務報告書や仕訳入力→5.元帳、6.検証→5.残高試算表から元帳を開いた時に税率を画面上で見れるように出来ないか。(画面下の仕訳では分かる)

※印刷処理→11.元帳と同じような感じで見れると良い。

A 下記の操作にて、表示内容の変更をご検討ください。

- ①元帳を展開する。
- ②上段の見出し行を右クリックする。
- ③「現在の画面設定を変更(A)」を選択する。
- ④項目一覧から「消費税率」を選択後、「>」ボタンをクリックする。
- ⑤設定項目にて、「消費税率」を選択し、上下ボタンにて適宜移動させる。

画面を閉しても「消費税率」の表示をご希望される場合には、下記の操作を行ってください。

- ①上段の見出し行を右クリックする。
- ②「現在の画面設定を保存(S)」を選択する。

Q-34 (NX ■)

仕訳入力→即試算表への表示ボタンを作してほしい。

A 仕訳入力内の「検証」→「残高試算表」へはテンキーから[6+ENTER][5+ENTER]の2操作にて起動することができます。こちらで運用をご検討ください。

Q-35 (NX ■)

元帳のExcel表への出力ができればいいと思う。

A 仕訳日記帳、総勘定元帳、科目別補助元帳につきまして、CSV出力機能に対応しております。そちらの機能をご利用ください。

Q-36 (NX △)

会計→02.印刷→51.消費税関係
税率別消費税精算表

- ①部門別でできる様にしてほしい。
- ②金額が完全0円の税率を表示するかしないか選べる様にしてほしい。

A ①申し訳ございませんが部門別消費税精算表をお使いください。現在のところは開発の参考とさせていただきます。

②0円の税率を表示するかしないを選べるよう対応を検討いたします。

Q-37 (NX ■)

仕訳入力画面の画面設定のパターンを複数保存できるようにしてほしい。(1つしか出来ないの、保存する度に上書きされる。)

また、画面設定をクライアント端末別に保存とあるが、共通設定でもできる様にしてほしい。

A ①仕訳入力画面は「F1 画面変更」により4つの表示モードがあります。それぞれでカスタマイズすることが可能になっておりますので、お試しください。

②共通の保存につきましては、端末ごとに画面の解像度が異なることから対応は難しいです。ご容赦ください。

Q-38 (NX ◎)

経営分析→一括印刷で「全選択」「全解除」できる様にしてほしい。

A 経営分析⇒一括印刷内のヘッダ「全月」を押下で全選択、全解除が可能です。他、ヘッダの押下で月毎の全選択、解除も可能となっております。

Q-39 (NX △)

仕訳の一括コピー機能がほしい。(複数の仕訳を一括コピー、ペースト)

A 仕訳のコピー機能につきまして、今後の開発の参考とさせていただきます。

Q-40 (NX ■)

経営分析→一括印刷で93月に仕訳がないのに、91月に入力したら93月が出力される。→91月を出力できるようにしてほしい。

A 出力対象のチェックの動作と推測し回答致します。91月のチェック後、92月、93月のチェックを外して頂くことで91月のみの出力が可能です。

Q-41 (NX ■)

比較、推移のところまで前期情報(前期元帳)も表示してほしい。前期の内容確認をするために前期データを開くのが時間がかかる。

A 前期元帳を表示するためには、前期データの展開が必要となっております。お手数をおかけしますが、(前期元帳の確認は)前期データを展開しご確認ください。

Q-42 (NX ■)

前期比較、推移、試算表は1クリックで切り替えできるようにしてほしい。

A 財務報告書や推移財務報告書などメニューから

起動できるものは複数起動できますので、それぞれを起動していただきタブを1クリックで切り替えての運用をご検討ください。

Q-43 (NX ◎)

会計大将で過年度実績を削除したい時があるので、一括で消せる様にしてほしい。(更新をかけた場合でなく他から関与が移った時に参考で入力した場合などで)

A 顧問先連動を採用していないデータが前提となりますが、残高登録の「入力区分」にカーソルがある状態のときに表示される「F8 一括削除」を使用することで過年度実績の一括削除が可能となっております。

Q-44 (NX ■)

科目入力でコードのみではなく、ローマ字入力に対応してほしい。

A 「HOME」キー押下により連想を起動していただき、そこからローマ字入力をお願いいたします。

Q-45 (NX ■)

翌期の入力について(会計大将)

→翌期の入力については、当期の枠内で翌3ヶ月は入力できる仕組みになっているが、その場合、当期の仕訳帳データからの仕訳のコピーができない。せっかく翌期を入力できるのであれば、コピーができるようにしてほしい。

A 次の手順にて仕訳のコピーが可能ですのでお試しください。

■概要

当期の仕訳を表示し、入力時に年を指定することで翌期の仕訳として入力します。

■事前準備

年の入力を可能にします。

⇒仕訳操作情報(「8. 共通設定」>「1. 共通設定」)にて『月可変「年」の入力区分』を『「年」の入力可』に設定します。

■手順

- ①月指定が『月固定』なら『月可変』に切り替えます。
- ②仕訳帳でコピーしたい仕訳を表示します。
- ③コピーしたい仕訳の行で「F3 入力」を押下します。
- ④フォーカスが「月日」欄にありますので、「←」キーを押下します。
- ⑤フォーカスが「年」欄に移動しますので、入力し

たい年を入力して「ENTER」押下します。

⑥フォーカスが「月日」欄に移動しますので、入力したい月日を入力して「ENTER」押下します。

⑦その後は ENTER 送りにて上段の仕訳をコピーしてください。

.....

Q-46 (NX ■)

連想検索について (会計大将)

→勘定科目などを連想検索し絞り込んだ際、絞り込んだ項目をダブルクリックするか、戻ってそのコードを再度入力することになるが、Tab キーなどで選択できるようにならないか。

A 連想では左上を「1」とした相対位置を指定した選択ができます。(摘要ウィンドウの「表示順序 No. による選択」のような機能)

例) 連想を「ウ」で絞り込んだケース

160 受取手形

161 割引手形

162 売掛金

...

とウィンドウ表示された場合、連想「ウ」の後に「1」を入力して CR キーを押下すると「160 受取手形」が選択されます。同様に「ウ」の後に「3」を入力して CR キーを押下すると「162 売掛金」が選択されます。

※ CR キーは、仕訳を効率よく入力するための特殊なキーで、仕訳操作情報(『共通設定』>『システム共通設定』)にて設定が可能になっております。詳細は仕訳操作情報のヘルプをご覧ください。

.....

Q-47 (NX ■)

勘定科目の体系等の他の顧問先への引用について (会計大将)

→会計大将導入(新規作成)時に勘定科目の体系をアレンジすることがあるかと思うが(特に医療法人の純資産の部など)、それをマスター的に他の顧問先に引用できるようにならないか。

また、それに付随して、電子申告決算書の関連付け作業も他の顧問先コードから引用できるようにならないか。

A データ関係処理の『データコピー』を利用した運用回避をご検討ください。なおデータコピー時は仕訳と残高を移送しない設定で実行し、コピー後、『会社基本情報』等の必要な登録内容を変更してご利用ください。または、『コードマスター情報移送』を利用した運用回避をご検討ください。

なお、移送先に設定する場合の会社データは、仕訳が未入力、顧問先連動未採用が前提となりますのでご注意ください。

※詳細な操作方法等はヘルプやマニュアルを参照してください。

所得税確定申告

Q-48 (NX ◎)

個人の決算書(所得税の申告書より出力分)の比較決算書が、左に前年、右に当年分が出力される為、利用しにくい。(他の比較の資料は、左に当年(当期)、右に前年(前期)が出力される。)

A 『決算書等入力』の「前年比較損益計算書」の前年・当年の位置は変更することができます。

『入力・印刷設定』で、「所得税・決算書」の「共通の設定」タブの「前年、本年の位置」の「前年比較損益計算書」の区分を選択してください。(すべてのデータに反映されます。)

.....

Q-49 (NX △)

特定口座年間取引報告の入力画面を呼び出す際に、配当のみの場合で総合課税を選択するときに、申告書を分離課税にすることなく入力できる様にしてほしい。

若しくは、強制入力で第1表の種類の○印を変更できる様にしてほしい。

A 国税庁の e-Tax ソフトによる「特定口座年間取引報告」を作成可能な平成 30 年分までの申告データ作成の仕様を参考にしたシステム仕様としているため、これまで対応は見送らせていただいております。

(e-Tax ソフト:申告・申請等の新規作成時に一般用(申告書 B の「第一表・第二表」を選択)の場合は第三者作成書類の「特定口座年間取引報告書の記載事項」を作成不可。分離課税用(申告書 B の「第一表・第二表・第三表(分離課税用)」を選択)の場合に第三者作成書類の「特定口座年間取引報告書の記載事項」を作成可能。)

しかし、令和元年分の申告から「特定口座年間取引報告書」が提出不要書類とされ、e-Tax ソフトによる令和元年分の申告データ作成で第三者作成書類の「特定口座年間取引報告書の記載事項」が無くなったことから、システムの対応可否等を十分に調査・検討した上で、対応を検討するよういたします。

新任役員・委員紹介

次の通り新役員が決定しましたので、ご報告いたします。

会 長	大久保昌逸	副 会 長	片山 和博	吉田 茂樹	岡村 康司	宮本 律夫	赤川 治之	
監 事	桑原有美彦	長谷 広信	甲斐 正信					
顧 問	山内 英行 松本 信幸	石内 忠 雪澤 知之	濱崎 光夫 小屋敷健一	船越 久人	木村 好晴	波多野 寛	阿比留義裕	
地区会長	小林 弘和(北九州) 宮本 律夫(熊本)	笹田 毅(福岡) 泉 比呂志(大分)	園田 嘉生(筑後) 長谷川 裕(宮崎)	古賀 昭彦(佐賀) 小川 廣之(鹿児島)	野崎 地平(長崎)			
理 事	北九州	小林 弘和	佐藤 亮治	白石 克哉	中山 淳	原田知代子	福田 省三	三井 良彦
	福 岡	赤木 保之	大坪 一彦	大松 隆	緒方 芳伸	木下 淳子	川野 秀明	空閑 秀樹
		古賀 照章	笹田 毅	末吉 幹久	武部 道孝	鉄川さえ子	成川 弘	野田 昇宏
		橋本千代次	東 泰三	外園 令明	松原 弘明	元山 博	柳武 清吉	行時 智子
	吉住 要祐							
	筑 後	石井 克樹	江崎 洋介	園田 嘉生	永松雄一郎			
	佐 賀	池田 健一	古賀 昭彦	山口 直孝	吉村 耕輔			
	長 崎	今村 茂雄	草野 恒史	古賀 昭男	手塚智三郎	野崎 地平	村田 絵理	
	熊 本	赤星 洋一	岩下 茂	磯塚絵理子	北岡 哲夫	坂田 義照	下田 憲幸	中尾 好輝
		畑野 和雄	水本 忠敬	米田 充				
大 分	芦刈太一郎	泉 比呂志	伊東 哲也	衛藤 勉	梶原 康弘			
宮 崎	鳥越正太郎	長谷川 裕	前原 和明					
鹿 児 島	小川 廣之	佐藤 哲郎	西山 勝	森田 純弘				

●委員会の構成は下記の通りです。

※副委員長・委員が未定の委員会につきましては、決まりしだいご案内致します。

	委員長	副委員長	委 員		
総務委員会	東 泰三(福岡)	佐藤 亮治(北九州) 岩下 茂(熊本)			
研修委員会	柳武 清吉(福岡)	原田知代子(北九州)	吉住 要祐(福岡)	小尾 卓三(筑後)	古賀 昭彦(佐賀)
			東 大智(長崎)	中尾 好輝(熊本)	米田 充(熊本)
			衛藤 勉(大分)	森田 純弘(鹿児島)	
広報委員会	空閑 秀樹(福岡)	下田 憲幸(熊本)	中山 淳(北九州)	鉄川さえ子(福岡)	江崎 洋介(筑後)
			池田 健一(佐賀)	笠戸 智仁(長崎)	泉 比呂志(大分)
			四元 一右(鹿児島)		
システム開発委員会	外園 令明(福岡)	三井 良彦(北九州) 成川 弘(福岡) 山口 直孝(佐賀)	則松 佳孝(北九州)	畠瀬 陽(北九州)	古賀 一生(福岡)
			古賀 照章(福岡)	長谷 広信(筑後)	手塚智三郎(長崎)
			梶原 康弘(大分)	西山 勝(鹿児島)	
福利厚生委員会	佐藤 亮治(北九州)	東 泰三(福岡)	梅野 功(筑後)	吉村 耕輔(佐賀)	弥永 努(長崎)
			北岡 哲夫(熊本)	伊東 哲也(大分)	奥村喜久夫(鹿児島)
財務委員会	古賀 照章(福岡)		坂田 義照(熊本)		
組織増強委員会	大久保昌逸(北九州)		委員は各委員長ならびに各地区会長の方です。		
情報ネットワーク委員会	草野 恒史(長崎)		白石 克哉(北九州)	中野日出史(福岡)	森 秀志(筑後)
			石丸新一郎(佐賀)	杉本 忠昭(長崎)	芦刈太一郎(大分)
			本村 信一(鹿児島)		

2020年はコロナに翻弄された一年だった。東京オリンピックは延期となり、高校野球をはじめとするスポーツやその他のイベントも軒並み中止となった。研修会も会議等も集合型はなくなり、配信・Web会議となり、参加の仕方も覚えざる得なくなった。必要に迫られるとどうにかするもので、ビデオ・ライブ配信を楽しみ、研修会等の受講も今は便利だと思えるようになった。

ある新聞に、4つの因子を満たしている人は幸せであると載っていた。1つ目が「やってみようとする」「自己表現と成長の因子」、やりがい、強み、成長など。2つ目は、「つながりと感謝の因子」で「ありがとう因子」感謝する人、利他的で親切な人、多様な友人を持つ人。3つ目は、「なんとかなる」と考える「前向きと楽観の因子」ポジティブかつ楽観的で細かいことを気にしすぎない人。4

幸せの4つの要因

◆福岡地区会
鉄川さえ子



つ目は、「孤独と自分らしさの因子」「ありのまま」と考え、自分軸を持って我が道を行く人。自分で自己評価してみて、まあまあかなと…。

それを受けてではないが、2021年、私は20年前観て感動した作品「ミュージカル ローマの休日」の観劇で至福の時を過ごすことからスタートです。その後も東京オリンピック等が開催され、また熊本にたくさんのミロク会計人会会員をお迎えできますように…。

令和3年3月開催予定の
認定研修のお知らせ

九州会では、11月からWeb研修を開始いたしました。運営に不慣れなためご迷惑をお掛けした点もありますが、今後もWeb研修を継続してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

九州会 3月18日(木) Web研修
テーマ：「令和3年度税制改正の概要解説」
講師：中島孝一 氏

長崎地区会 3月23日(火) Web研修
テーマ：「令和3年度税制改正の概要解説」
講師：西野道之助 氏

筑後地区会 3月25日(木) 延期
4月開催で日程調整中です。

テーマ：「法人課税の誤りやすい点について【4】」
会場：久留米ハイネスホテル
講師：植田卓 氏

*コロナ感染拡大の状況により、研修会を中止または延期することもありますので、ご了承ください。

編集後記

「九州の風」は昭和62年12月に第1号が発行され、本号で第100号を迎えることができました。この33年の間に多くの会員の皆様に投稿をいただきました。厚く御礼申し上げます。

本号は第100号記念号として対談を企画しました。舩越前会長をはじめご参加していただいた皆様には、昔の思い出から現在、そして将来につい

てたくさん語っていただきました。残念ながら紙面の都合上全部を掲載することはできませんでしたが、参加者の皆様、長時間ありがとうございました。

また、第1号から携わっていただいている事務局の桑原さんに感謝申し上げます。

広報委員長 空閑 秀樹



突然の 事業承継。 その時、 保険が力になる。

—— 有限会社 古田商会
取締役 古田千賀子

本当に突然でした。
主人が亡くなったのは、
昼までは普通に仕事をしていたのに、
夜に倒れてそのまま。
まさか主人が亡くなるなんて考えもせず、
会社を継ぐ準備も一切していませんでした。
それでもすぐに、
店は開けようと思ったんです。
店は主人にとって
一番大切なものでしたから。
主人がつくりあげた取引先を守るのか
不安もあるけれど、
これからも店は大事に
育て続けていきたいです。
「ほら、がんばってるよ」とって。
見せられるように。
突然の事業承継。
それはだれにでも起こりうるもの。
もしもに備えて保険にできることはないか。
みなさまとともに考え、
日本の中小企業をサポートし続ける。
それが私たち、エヌエヌ生命です。

お問い合わせはエヌエヌ生命の各営業部へ

管轄地区	営業部	電話番号
福岡県、長崎県、佐賀県担当	福岡第一営業部	092-734-6225
福岡県、大分県担当	福岡第二営業部	092-734-6230
北九州市、山口県担当	北九州営業部	093-285-3480
熊本県担当	熊本営業部	096-323-8223
鹿児島県、宮崎県担当	鹿児島営業部	099-225-7268



NN

中小企業サポーター

エヌエヌ生命